

学 生 座 談 会

大学生のいまーオンラインと大学

【出席者】

田中 陽菜 龍谷大学経営学部2年生。
池田 智咲 札幌学院大学心理学部2年。
寺山 有美 弘前大学農学部2年生。
村上 結菜 東北大学法学部2年生。
澤木 翔 群馬大学教育学部3年。
井上 明香 日本女子大学理学部3年。
古賀 蒼大 長崎県立大学佐世保校地域創造学部3年。

【コーディネーター】

只友 景士 龍谷大学政策学部 教授

【只友】 本日は、お忙しいところお集まり頂きましてありがとうございます。私は、龍谷大学の教員の只友景士と申します。最初に、今日の学生座談会の趣旨を説明しておきましょう。本誌は、地域生協の方々を主な読者とする雑誌なのですが、読者の皆さんのところにも「コロナ禍で大学生の生活は大変らしい」という話が伝わってきているのですが、「学生の実態はどうなのか？」とお感じの人が多いようです。そこで、今日の企画は、コロナ禍における大学生のリアルな実態を知ってもらうことを目的としています。大学の外の世界の皆さんに、オンライン授業がなされる大学の今の学びの状況や大学生の暮らしの状況なんかを知ってもらいたいと考えています。

自己紹介と大学の状況

【只友】 最初に、自己紹介も兼ねて皆さんの大学の様子について教えてください。2年生から生きましようかね。トップバッターは、田中さんからお願いします。

【田中】 龍谷大学経営学部2年生の田中陽菜と申します。今日はよろしくお願いします。龍谷大学の様子ですが、今年の前期は週2回、言語の授業だけが対面授業でそれ以外は全部オンライン授業でした。一応、週に2回だけ学校に通っていました。周りの友達とかは、学部の専攻科目とかでも対面の授業が結構増えていたの



で、去年に比べるとすごい対面授業とか、大学の中の人の多さとか食堂とかも昼休みすごい列になっていたので、結構対面も増えてきているのかなという印象でいました。課外活動とかも、大学の活動制限レベルによって対面オッケーのときと、対面駄目っていうときがあるんですけど、今年の前期は、緊急事態のときは対面駄目だったんですけど、後期とかはほとんど対面で活動できたので、大学の制限も緩くなってきたのかなという印象でいます。

【只友】 はい、ありがとうございます。田中さんは、後期もそうだった？後期も言語だけだった？

【田中】 後期も言語だけでした。

【只友】 そうですか。それも実は学部の特性によってちょっと違っていたりとかあったみたいですね。ありがとうございます。それでは、次の2回生は、池田さんお願いします。

【池田】 はい、全国大学生協連合会北海道ブロックで学生事務局を務めております。札幌学院大学心理学部臨床心理学科2年の池田智咲です。今日はよろしく



お願いします。札幌学院大学の様子は、前期は一時期立ち入り制限が入りまして、後期は制限が少しばかりつつも大学には少し入れるような状況でした。心理学部は結構ロールプレイといってコミュニケーションをとる科目が多いのですが、それでも3分の1くらいが対面で、残りは遠隔授業が多かつ

たですね。

他の学部、法学部とか経営経済学部とかだと、もう半期に1、2科目くらいしか対面の授業がないだとか、3年生になると、ほとんど対面はなかったという話も聞いています。課外活動は、年に3分の1くらいの日数は対面が許可されていたのですけれども、サークル棟や体育館などサークル活動する場所が立ち入り制限になったりして、札幌市近郊ということもあって、コロナの影響が大きかったかなと思います。

【只友】 はい、ありがとうございます。じゃあ、次の2回生は、寺山さん、お願いいたします。

【寺山】 全国大学生協連合会東北ブロックで学生事務局を務めております、弘前大学2年生の寺山有美と言います。テラと呼ばれています。弘前大学の状況は、



2年生の2021年前期のときは、特にコロナの影響はそれほどでもなく、普通に全面対面授業で冬休み前までは全部対面でした。ところが、冬休み明けてから学内で感染者が出たりするようになって、弘前市のほうで感染が拡大して、今も「まん防」出ていたりとかしました。そのため、1月からはもう課外活動も休止、大学の対面授業も多くがオンライン授業に切り替わったという感じです。そんな中で、対面授業が行われたのは、やむを得ない実験とか、担当の教授によっては大学でやりますっていう人もいれば、私の所属する農学部では、先生が実験を操作しているのをオンライン

で見せるっていうような授業が展開されていたりしていました。

【只友】 ありがとうございます。そうですね、たぶん弘前大学にとっては、2021年の2年目のほうが大変だったかな。20年はあんまり影響受けなかったんじゃないかな？

【寺山】 2020年は、前期かな。前期は、さすがに日本国内でバタバタしてたので、それはさすがに。

【只友】 なるほど、その頃は全国に緊急事態宣言が出されたしね。ありがとうございました。それでは、次の2回生は、村上さん、お願いします。

【村上】 はい、全国大学生協連合会東北ブロックで学生事務局をしています。東北大学法学部2年生の村上結葉です。出身は岩手県盛岡市です。東北大学の状況



は2021年の前期はほとんど全部の授業がオンラインでしたが、後期は週に5コマぐらいが対面になって、だいたい3割から4割ぐらい私は対面授業を受けることができました。2021年前期は、大学がやや慎重で、BCPレベルが、国内で緊急事態宣言とかが出されるとあんまり活動ができないうふうになっていたので、対面授業も、全員は集まれないので、事前に来る人を集約して対面授業でやるとかっていう方式がとられている授業がありました。言語の授業で対面がある人もいたのですが、私のとっていた授業は、先生が持病を持ってい

らっしゃったりして、念のためにオンラインでやることになっていました。そのため言語の授業でも対面授業はほとんど経験しませんでした。後期はちょっと緩和されて、初めて対面授業に本格的に参加した感じになりました。先生によって対応も様々ありました。ある先生は、後期も対面ではほとんどオンラインで生徒がプレゼンテーションをやるような授業だったり、あとは、対面でも全員参加の対面授業は少なく、対面授業でもやるし、その授業を録画してオンラインにも上げて、オンデマンドで対応してくださる先生もいらっしゃいました。そうしてもらって対面授業とオンデマンド授業のどちらでも好きな方を学生が選べるようになるので便利でした。

【只友】 はい、ありがとうございます。村上さん、ひょっとして20年の後期もオンラインが多めでした？

【村上】 そうですね、1年生のときはほとんどオンラインでした。

【只友】 ということは、2回生の後期でやっと対面授業やったっていう感じだったのかな？

【村上】 はい。2回生になって、ほとんど初めて対面授業という感じでした。友だちにも全然会っていなかったです。

【只友】 ああ、そうですか。私は東北大学の公共政策大学院に集中講義に行っているんですけど、2020年2021年と2年連続でオンライン授業やりましたね。東北大学は、結構慎重な対応だったのですね。よく判りました。それでは、次から3回生ですね。澤木君お願いします。

【澤木】はい、群馬大学教育学部数学専攻の3年になります澤木翔です。自分はちょっと2020年度の話からすると、群馬大学はコロナ対策凄く厳しくて、実習



実験だけ対面っていうことでした。私はあまりそういう授業取らないものなので、昨年度はたぶん1年で5回ぐらいしか大学行ってないという感じです。それで2021年度になってからは、4月ぐらいは、人数が少ない講義だけ対面で始まりましたが、他はオンラインという感じでした。5、6月頃にまたコロナが少し流行ったてきたということで、一度全面オンラインに切り替わり、7月になってオンラインだったのを少し対面に戻したというかたちで前期が終わりました。

後期はちょっと私、教育実習があったので、授業をほとんど取ってないんですけど、教育実習の話をすると、付属の学校に行くときは100人ぐらいでまとめて教育実習行くんですけど、そのときは人数が多い関係もあって児童生徒との接触は基本なしとされました。自分が授業するときは教室入ってやりますが、他の人の授業を見るときは廊下からの参観になりました。そして、休み時間とか昼休みは控室で待っているという感じでした。授業の練習はできたのですが、あまり子どもとは接することができなかったというかたちで教育実習は終わりました。後期は確か対面授業がわりとありました。私も対面授業を取っていたので、対面で受けていましたが、2021年1月にまたコロナ流行っちゃったので、全面オンラインになりました。課外活動もだいたい同じような感じで、できたりできな

かったりを繰り返している感じです。

【只友】はい、ありがとうございます。そうか、教育実習も教室に入るときぐらいしか直接は児童と接しなかったという感じだったのですね。分かりました、どうもありがとうございます。教育実習の期間は一応3週間やったのですか？

【澤木】群馬大学は実習2回ありまして、5週間プラス3週間です。そして、5週間のほうが付属校のほうに私は行きましたが、こちらが先ほど話したようになりました。3週間のほうは県内の公立の小中学校で、そのときはずっと教室にいられました。

【只友】ああ、そうでしたか。

【澤木】教育実習も学校によって対応がちょっと違ったようです。

【只友】龍谷大学からも毎年何百人か全国に教育実習に行っています。昨年から文部科学省が特例を認めているので、実習期間3週間のところ2週間に短縮したりとか。それから、実習を受け入れる予定だったのに受け入れが取りやめになったりした事例もでています。そのような場合は、代替措置を学内で執ったりしなければいけなかったりとか、なかなか大変でした。

はい、ありがとうございます。じゃあ次の3回生は、井上さんお願いします。

【井上】日本女子大学の理学部3年の井上明香と申します。日本女子大学は都内の文京区にあるので、わりとこの2年間は制限が多かった大学かなと思っています。2020年は、私自身は一度も大学に行かないまま1年間を過ごしました。すべてオンライン

授業で。2021 年に入ってから週 1 回だけ登校していました。私は数学の専攻でして、数学系の演習の授業やゼミとかの研究室の関連だけが対面で、それ以外はオンラインでした。大学の課外活動の制限としては、緊急事態宣言が出ているときはもうすべて禁止で、何か今みたいに「まん延防止」が出ているときは、大学への申請が通れば許されるって感じだったので、サークルの活動内容によっては、なかなかできない状況が続いていました。



【只友】はい、ありがとうございます。じゃあ次、最後の 3 回生、古賀くんお願いします。

【古賀】はい、本日はご参加させていただきありがとうございます。全国大学生協連合会九州ブロックで学生事務局も務めております、古賀蒼大です。私は、長崎県立大学佐世保校の地域創造学部実践経済学科というところに所属しています。よろしく願いいたします。



長崎県立大学の現状としては、まず授業形態から話します。授業は、一応大学側からは「オンラインと対面を大体半々、1 対 1 くらいで」っていうことになっています。ただ、授業によっては 100 人規模とか、結構大規模で授業するっていう場合もあります。その場合には、オンラインで授業をするっていうところもありました。なので、

ゼミとかそういった少数の授業の場合は先生の判断で、対面で行うという対応を取っていました。1 年生のときに言語を必ず取らないといけないんですけど、英語の授業とかやっていて、それも 1 年生に聞いてみると、オンラインでやりましたっていうのを聞いてたりして。で、初めて同い年の友だちと対面で、授業で会いましたっていうのが、確か前期の後半ぐらいになって、やっと初めて会いましたっていうことを言っていました。サークル活動に関しても、基本、僕の大学は比較的、そこまで制限は掛けられたりとかはしてはいなかったんですけど、やっぱりどうしても佐世保が最近になって結構感染者が、人口比で比べると高い感染率を出しているの、そういった場合にはサークル活動が全面的に禁止になったりとかしている状況ですね。

【只友】はい、ありがとうございます。ひととおり皆さん自己紹介も兼ねて、ざっと大学の様子とかを話してもらいました。まん延防止等重点措置や緊急事態宣言が出たりとかすると、対面授業からオンライン授業に切り替わったり、厳しい課外活動の制限が出ていたり、規制が解除されると対面再開とかが繰り返されたといった現状が明らかになったかなと思います。



コロナ禍での学生生活 ～コロナ世代の日常～

【只友】次に、このようなコロナ禍での学生生活について、聞かせてもらいたいと思

います。

今度は3回生から聞いていきたいと思います。3回生は1回生のときにコロナ以前の大学を経験しています。今では、すごく貴重な経験になりつつあります。今の4回生は、この2022年3月で卒業します。コロナ以前の大学ってこうだったっていうのを知っている人は、2022年度には、今の3回生だけになってしまいます。コロナ以前との対比をしながら、コロナ禍での学生生活、「コロナ世代の日常」を聞かせてください。

それでは、3回生の古賀君からお願いできますか？

【古賀】 はい。そうですね、コロナ前と比べると、一番に挙げられるのが授業の形態が対面からオンラインに切り替わったっていうところですね。単純にオンラインに切り替わったというところで、学生としては結構助かったなっていう部分もありますし、それでもやっぱり「ちょっと」っていうところもあります。オンデマンド型授業やリアルタイム型授業とか、先生によって違うのですが、学生にとって良かったなと思うところは、オンデマンド授業であれば、自分の好きな時間に、自分で計画を立てて勉強できるっていうところが良かったなと思っています。あと、対面授業ではどうしても大学に行かないと受講できなかったのですが、オンライン授業であれば、家ですぐ受講できる。朝起きて直ぐにパソコンを開いてZoomに参加するといったことも可能で、コロナ前の対面の授業に比べれば、少し大学生にとってはちょっと楽になったかなって思います。

【只友】 絶対それあるよね、私も「先生！9時始まりの授業に出るのに、7時半に起

きなきゃいけなかったのが、オンライン・ライブだったら8時55分でいいんですよ」と学生から聞いたことがあります。

【古賀】 そうですね。学生の中には、片道2時間かかっている人もいて。そういった学生からしたら、それこそさっきの先生の話のように、授業始まる5分前に起きても何とかなるみたいな感じで、そこは良かったよねっていう話はしていました。

一方で、オンライン授業では、対面のときと比べて、どうしても学びを得られたっていう実感が薄くなったと凄く感じています。例えば、授業の最後の試験であったりとかも、対面が難しいということで、Googleフォームであったりとかのオンラインでのテストとかもありましたし、レポート形式での成績評価などがあったりとかしました。そうしたなかで、自分はこの授業で学びを得られたのだろうか、ちゃんと身につけているんだろうかっていう不安が残るところがありました。

【只友】 ありがとうございます。学生のリアルな実態として今のような話ちょっと聞きたかったですね。ありがとうございます。次の3回生は、井上さんお願いします。

【井上】 私は、この2年間、対面授業とオンライン授業を経験して、両方を比べたときに、「人との距離感が凄く変わったな」と思っています。対面授業のときは、授業で分からないこととかがあったときに、もちろん周りに友人がいるので、小さなことでも聞けたり、先生にすぐ聞いたりっていうことができる環境だったのですが、この2年間、オンライン授業では、何かちょっとしたことで先生に聞きづらい環境になってしまったっていうところがすごく大きな

違いだなと思っています。私の対処法として、友人と通話しながら勉強して、なるべく対面と同じような環境で勉強するようにしています。それでも、やはり先生とコミュニケーション取るほうは、学生から改善する手段はなかなかないなって感じています。

一方で、先ほど古賀さんが言っていたように、通学時間がなくなったところは、すごく大きな変化だと私も思っています。日本女子大学の場合は、ほとんど8割9割が自宅生なので、わりと家が遠い人が多いので、通学の負担が減って、その分、アルバイトに時間を充てるなど、時間の使い方が変わった人も多いなと思っています。

授業というかアルバイトの話になると、私の場合は、1年生のときは塾でアルバイトをしていたのですが、コロナ禍になって塾自体も閉まってしまって、私は2年生の夏ぐらいまでアルバイトがまったくできない状況になってしまったので、生活に困っていたわけではないのですが、遊びを含めて学生らしく使えるお金がなくなってしまったといった部分で困ってしまった部分はありました。

【只友】ありがとうございます。井上さんは、友だちと通話しながらも勉強するという工夫をやったわけですね。Zoomなんかでつないで、「何時から一緒にやろうね」というような感じで勉強していたのですね。

【井上】 はい、そうです。

【只友】 一方で、先生とのコミュニケーションの改善の手段は、学生主体ではなかなか作れなかったと。なるほどね。

先ほどの古賀君の発言で、「やっぱり身についたという実感というのがちょっと乏

しいです」というのが、教員としては何かすごく気になりました。たぶん身につけていると思うのだけど、何か身につけていると思える実感できるようなシチュエーションがないからだよね。期末試験をやったぞっていうあれだね。

それでは、3人目が3回生の澤木さん、お願いします。

【澤木】 私も前おふたりと同じところがあります。やっぱり人とのつながりはどうしても離れたかなとは思っています。ただ、1年生のときに人間関係作れていたっていうのもあって、今の1、2回生よりかは、元々あったつながりは保てていたもので、そういうところは、まだ3回生以上はいいのかなと思っています。オンライン形態でもブレイクアウトルームとかがやりやすいので、いろんな人と話すことはできたなと思っています。ただ、その関係を続けていっているわけではないのですが、何かいろんな人との関りは増えたかなと思っています。

課題とかメールがよくくるので、自分でパソコンをよくチェックするようになりました。そういうところは社会に出たときには、何か役に立つのかなと思っています。パソコンに触れる機会が多いと、パソコンのスキルが身につくので、そこは良かったところかなと思っています。

コロナで、オンラインになって良かったことは、私は数学の授業を取っているんですけど、数学のテストが凄く難しいので、テストが期末レポートとかになったのはとってもありがたかったです。テストだと、どうしても単位がなかなかということになってしまうので、ちょっとそこはありがたかったと思っています。

アルバイトも、自分も2年生になってから半年ぐらい行けなかったもので、すぐ辞め

ちゃって、別のアルバイト先に変えたのですけど、新しく入ってきた今の 1、2 年生だと、先輩からアルバイト先を紹介してもらえないっていうのもあって、どんなアルバイトがいいのかって情報の入手が難しいかなと思いました。

【只友】 ありがとうございます。3 回生は 1 年生のときの人間関係がいきていたと。それでは、コロナ世代の 2 回生からリアルな学生生活の体験をお話いただけたらと思います。じゃあ、村上さんからお願いします。

【村上】 はい。私は 5 点に分けて話したいと思います。まず、授業について、先ほど出席のお話もありましたけど、私の所属する法学部では、出席をコロナ前からほぼ取らず、テストだけで成績を決めるっていう授業がほとんどです。それはコロナ禍でも変わっていません。リアルタイム配信の授業なら授業時間に視聴しないと見られなくなってしまうんですが、オンデマンド授業はいつ視聴してもいいので、時間割どおりに見ていく人もいますけれども、その時間に授業以外のことをしているという人も結構いました。それで、私は時間割どおりに、リアルタイムでもオンデマンドでもできるだけ視聴するようにはしていました。大学には行かないで一人で家で授業を視聴していたのですが、友だちもいないですし、ずっと家で動画を見ているのは、「大学生としてこれでいいのかな？」と。家にずっと一人でいて、何か通信教育とかと変わらないのではないかと思ったりしました。そんなことで勉強に身が入らなかったなっていうときもありました。そこは、大学の友だちができていた 3 回生の皆さんとはちょっと違って、私たちは友だちができる前に全部

オンラインだったので、友だちと教え合ったりするっていう友だちもあまりいないし、そもそも聞こうっていう気にならないところもありました。対面授業が始まってからは改善されていったのですが、私は 2 年生の前期、後期から早めに演習系の授業を取り、少人数で受けられる授業を増やす工夫をしていました。

次に、アルバイトのことでありますが、私は最近まで、アルバイトというアルバイトはほぼしていませんでした。2020 年の 1 回生の時に、東北大学のある仙台に行けなくて、ほとんど実家の岩手県で過ごしていました。大学から「後期から大学に来られる準備をしてください」と言われていたけど、結局行かなくても大丈夫だったみたいなことがあったりしました。いつ大学が対面再開されるか見通せず、今地元でアルバイト始めて、すぐ大学のある仙台に行くことになったらどうしようみたいなこととも思って、1 年生のときはアルバイトを始めにくかったです。

【只友】 じゃあ、1 年生はずっと盛岡にいたのですね。アルバイトができなかった理由っていうのを私は聞いてびっくりしました。

【村上】 ずっとというか、夏休み前半の 9 月頭ぐらいまで盛岡にいて、夏休み後半から、家は借りていたんで、ひとり暮らしの大学生活に慣れようと仙台に行ったんですけども、結局授業はほとんどオンラインで、試験もオンラインだったので、年末年始に帰ってからはずっと春休みもそのまま実家で過ごしました。

【只友】 分かりました。アルバイトができなかったっていう理由を聞きました。それ

では、続きをお願いいたします。

【村上】 私は、「無料法律相談所」という、法学部生が自主的にやっている特殊なゼミのようなものに所属しています。そこは対面の活動をしていたのですが、出来なくなってしまいました。活動の詳細を知っている人が3年生だけになってしまったので、その3年生の皆さんが、コロナ禍でもオンラインで頑張っていて、後輩に勉強会を企画するなどの工夫をしてくださいました。最近、やっと対面で活動ができるようになって、何とか立て直してきたというのが今の状況です。サークルがコロナで活動できなかった間に、役割を理解している人がいなくなってしまうとか、活動できなくて入っている意味がないからと辞めてしまう人が大勢でたりすることがありました。私は一応今も続けていて、これからは2年生が中心になって活動していく段階になっています。

【只友】 法学部の無料法律相談のサークルっていいですね、結構な人数いるのではないですか？

【村上】 そうですね、結構減ってしまったと思うのですが、一学年20人弱くらいです。市民の方から相談があるのですが、大学が、学外の方を大学内に入れるのを規制しているので、活動が制限されるという状況が続いていました。

【只友】 なるほど。ありがとうございます。続きを聞かせてください。

【村上】 次は、友だち関係のことです。これは、私の個人的な感覚なのですが、高校まではあまり積極的に友だちと会って

遊びたいとは思っていませんでした。ですが、大学生になってコロナになって、人と会うのが制限されてからは、人と会ってしゃべることって、いろいろ何か自分の考えを言えたりとか、ただしゃべるだけでも結構ストレス発散になったりするんだなというふうに、結構実感しています。そこで、大学で自分から話しかけるようにしたりだとか、友だちと一緒にごはんに行くみたいなことをできるだけしたいなというふうに思い始めました。今年の後期からは、対面授業が先ほど言ったように始まって、その対面授業に来ていた人もそんなに多くはないのですが、対面授業と一緒に受けた友だちと休日に会って遊んだりだとか、勉強の話をしたりだとかというような機会ができて、とても充実した感じがします。

最後に、これからの学生生活でやりたいことについてです。1年生のときに全学教育科目というどの学部でも受けられる専門科目ではない授業があります。それがほとんどオンライン授業になってしまいました。東北大学は総合大学なので、ほかの学部の授業を受けたり、ほかの学部の友だちができたりのも入学前は楽しみにしていたんですけども、それがオンラインになってしまったのでできませんでした。普通は1年生の間に全学教育科目の卒業単位は全部取る場合が多いんですけども、3、4年生になっても全学教育科目をちょっと取って、専門以外の勉強とか、友だちとの交流を作れたらいいなというふうに考えています。

【只友】 ありがとうございます。今の話何かいいいですね、総合大学だとやっぱり他学部の友だちできたらいいですね。

じゃあ、次は寺山さんですね、寺山さん、お願いします。

【寺山】 初めに言うと、私そこまで真面目にオンライン講義を受けていませんでした。対面はさすがに「教授目の前にいるし」っていうのがあって真面目に受けましたが（笑）。なんですけど、授業の受け方として、興味ある専門の遺伝子関係などの話だったら画面の前で「本当に動画見ている」感じで、「へえ」と思いながら聞いていたりしていました。でも、必修だけど、「単位はレポート提出とか出席のみで評価」みたいな、「受けてれば単位取れます」みたいな授業もあって、しかもオンラインとか。そういう科目は、基礎的なものだから前期にあったりします。入学した1年の前期は全面オンラインだったから、最初は真面目に受けましたが、「これは何か真面目に受けなくても何とかなるんじゃないか？」とか思い始めて（笑）

【只友】 いや、リアルでいいです（笑）。僕も授業しながら、授業の画面の向こう側では、画面を消してあるから何をしているかわからないけど寝ている人もいるだろうなと思いながら、真っ黒い画面に向かってしゃべっていました。ひょっとしたらつけっ放しにしといて違うことしている受講生もいたでしょうね。リアルな話ありがとう。

【寺山】 何か授業を聞いているだけだと、どうしても周りに誰もいないし、退屈だしで、授業の音を流しながら部屋の掃除を始めたり、自炊しながらキッチンにスマホを持っていったりして、スマホの画面見ながら料理してたりとかっていうのは普通にありますね。あんまり公に言っているのかわからないですが。

【寺山】 今の話に関連した余談ですが、先

生はやはりいるかどうか確認したいじゃないですか。弘前大学は、基本リアルタイムで配信して、電波悪かったとき用にレコーディング撮っというて、あとでオンデマンド配信って感じなので、出席はリアルタイムのタイムスタンプだったりとかで判断したりとか、フォーム送ったりで判断しているのです。すると「送っちゃえば出席になる」って勘違いする学生がいて。先生たちは、そういった学生をマークしているのです。2年後期の対面の普段の授業態度を見といて、オンラインになったときに、その人に集中的に当てるのです。「いるか？」と。

【只友】 そういうときの先生の気持ちも分かるな。

【寺山】 「誰々いる？」って言うと、返事が返ってくるときもあれば何にも返ってこないときがあって。先生は、返事がないと「あーあっ、欠席っ」とかはありましたね。村上さんのほうからは真面目なほうを言ってくれたので、ちょっと不真面目なほうをしゃべりました。

【寺山】 私は、アルバイトの話をしたいと思います。私は1年前期、5月まで入学式も特になくって、弘前大学側も「5月から授業やります」みたいな感じだったので、暇だなんて思っていました。1年の4月ぐらいから塾のアルバイトをしました。弘前は、そこまでひどくなかったっていうのもあって、5月の緊急事態宣言出されたときは休講になったのですが、本当に数週間、1週間2週間くらい休講して、それ以外はずっと授業できていたので、恒常的にバイトのほうも入っていました。

最近、弘前がまん防になってからは、やっぱり親御さんとかの相手側でコロナ感染者

出たりとか、小中高で出てしまったりとかで、中学校の子たちは来させられないとかっていうのがあって。普段は私たちも対面でやっているのですが、急遽、オンライン授業に切り替わったりしました。講師は塾に来て、塾から自分のスマホを使って塾生とオンラインで授業することになりました。

あとは、なかなか帰省ができません。私一人暮らしで、出身は関東なのですが、バイト先に「お盆に帰省したいのですけど…」て言うと、「お盆明けた弘前に戻ってきた後、2週間自宅待機してね」となるので、もう気軽に帰れないとかっていうのもあります。

【只友】 気軽に帰省できないこともあるかな。ありがとう。

【寺山】 お友達関係ですが、弘前大学生協のウェルカムパーティーが私たちの代は中止になっています。今は、オンラインに切り替わっていますが、2020年度はなかったので、友達を作るツールが少なかったです。私はTwitterとかで、『#春から弘大生』とかでつながり持っていたりとかしました。本当にTwitterそんなに触ないとかっていう人は、そういうつながりなく、「友達どうやってつくったの？」みたいな話があります。それこそ対面になってから、やっとオンラインでずっと名前だけは知っている人とつながったり、同じ学科の人とつながったりしました。

最後に、これからやってみたいことは旅行です。本当は、私、大学生になってからいろんなところへ旅行に行ってみたかったのです。温泉が好きなので、温泉旅行に行きたいなとか思ってたのですが、移動が制限されているっていうのもあって、今

はまだ厳しいかなって感じですよ。

【只友】 ありがとうございます。そうね。そうか。結構、友達にリアルで会えないから『#春から〇〇大生』とかでつながってるのは結構大きかったのかもしれないね。

【寺山】 私はそうでした。でもDM送られてきて、それに答えて、「あ、よろしく」とか「教科書一緒に買いに行こうよ」みたいなことで、初めて会うみたいなのはありました。

【只友】 ありがとうございます。そういうSNSの新しいツールの活用もされていたってことですね。はい。次は池田さん、お願いします。

【池田】 はい。今のお話聞いていて、もうめっちゃくちゃ「それなーっ」て思って聞いていました。まさに遠隔授業のZoomのときに何か作業をしながらやるっていうのは、私のところでも「あるある」でした。2時間ぐらい続けてZoomあるときは、みんな洗濯するっていうのが「あるある」でした。裏で、洗濯機回して、洗濯干しながら聞くとか、食器洗いながら聞くとかっていうのはよくありましたね。

アルバイトのことですけど、私は1年生のときは、2、3カ月くらいしか大学に通えなかったんで、ほとんど実家に帰って授業を受けていました。「実家の両親とか家族にコロナ移したら困る」とか、「私がバイト先からコロナを持ってきたりされたら困る」ということで、アルバイトも両親から禁止されていました。家の中で本当に隠れ身じゃないですけど、マジで帰ってきていることを隠しながら実家にいるっていう

感じでした。

2 年生になってからは札幌のほうに戻ってきました。やっぱり札幌のほうに出るとコロナにかかる確率はすごく高いなと思って怖かったので、学内のバイトをしました。このバイトもたぶん遠隔授業ならではだと思うのですが、遠隔授業に使うサイトがあって、そのサイトの使用方法、マニュアル書いたりだとか、学生が何かトラブルあったときに電話対応とかしたりだとか、あとパソコンに不慣れな教授の授業作りのお手伝いだとかも、結構していました。

【只友】 ありがとうございます。オンライン授業のサポートですね。

【池田】 はい、そうです。オンライン授業のサポートのアルバイトをしていました。友達のなかには、飲食店とかでバイトを探していたのですが、やっぱり競争率も札幌は高くって、なかなか見つからないっていうところもあったりだとか。あとは、あんまり中心部に入ると、それこそコロナの確率が高くなるとだかで、かなりバイト探しには困っている人が多かったかなと思います。

サークルに関しては、うちのサークルは、まだ全員で対面による活動をしたことがまだあんまりなくて、ほとんど Zoom でしか活動できていないです。そういうサークルも結構あったりだとか、コロナに入ってからまだほとんど活動していないというサークルも多かったのですが、うちの大学全体のサークル加入率で言うと、1、2 年生でサークル加入している人が半分以下っていう数値になっているそうです。課外活動をしていない学生が多いので、就職活動の時に、学生時代に力入れていたことが言えない学生が多くなるのではないかと、大学の方でも

問題視されているようです。

友達関係は本当に浅い関係が多いなと思っています。大学で Zoom のブレイクアウトとか、ちょっとしたグループワークで 1 回お友達になった人は顔見知りにはなれても、そのあと深い関係につながるっていうことが本当に少ないと思います。会ったときに手振る程度の友達はいっぱいいるのに、何か友達少ないなって感じる人が多いですね。

あんまりこれはほめられることじゃないと思うのですが、近くの一人暮らしをしている同じ学部のお友達同士、私の周りは 5 人くらいで、家族のように今、過ごしています。ルームシェアじゃないのですが、頻繁にご飯一緒に食べたりだとか、一緒にお部屋にいたりとか、あと一緒に課題やったりとかしています。本当に一日中しゃべらないで過ごすだとかっていう日もあったり、本当に引きこもりがちになったりするので、「ちょっと、濃厚接触者だね」とか言いつつ、一緒に家族のように過ごしてる友達は本当に貴重な存在だなと思っています。

ハッシュタグの話もあったと思うのですが、入学前 2 年以上前くらいに知り合ったハッシュタグのお友達と、12 月くらいにやっと会うことができました。たまたまゼミで一緒になって、「あれ？ やっぱあのとき知り合った子だよな？」みたいな話を 2 年越しにできたのが、ちょっと面白かったかなって思います。

学業に満足しているかっていう点だと、現状は諦めてというか、しょうがないよりは受け入れつつ、社会に出たときに、「コロナ世代」という感じで、「大学であんまり勉強しなかったでしょう」とか、「色んな経験不足でしょう」みたいなふうに言われるのはちょっと怖いなと思っています。

す。

学業に力を入れているっていう自覚も持ちにくく、コロナ以前に勉強した人に比べて絶対学びの質は下がっているのではないかと考えて、将来コロナが落ち着いた後にどう言われるのかなってところは、今、すごく不安です。

【只友】 ありがとうございます。池田さん、今言ってくれたことは、私たち大学の教員が気を付けなきゃいけないことだと思います。今のコロナを経た学生たちに、社会から『君たちコロナ世代だね』って悪い意味で絶対に言わせないようにするってことを、私たちは考えなきゃいけないね。

それに、池田さんの話の、近所の同じ学部の子達と何か一緒に何か家族のように、ちょっと共同生活みたいな勉強をしているっていうのも、それも一種のコロナ世代の「ガクチカ」だと思うんだよ。そういうふうになんか発想を変えるようなこととかして、私にとってのガクチカっていうのはこれだよ。

「家族にうつしたらいけないのでバイトをしないのも私にとっての感染対策のガクチカです」と言えるだろうし、対面授業始まってからの「大学で友達と一緒に勉強するっていうのはかけがえのないガクチカです」とか言ったほうが良いような気がしました。

学生たちのそういったたくましさっていうのを、私たちが意識して押し出してあげなければならないと思いました。もう話聞いていたらね、学生たちのたくましさがたくさん感じることがあるんだけどね。はい、ありがとうございます。

それでは、次は、田中さんお願いします。

【田中】 コロナ禍での学生生活は、何か東

北の方たちは結構制限が厳しいなっていうふうに話聞いていて思っていました。私は今、大阪の岸和田っていう「だんじり」が結構有名なところから京都の大学まで片道2時間かけて通っています。オンライン授業だとやっぱりさっき皆さん言っていたみたいに、朝1限のときとか9時まで寝ていても間に合うので、それはすごくありがたいことやなって、2年間通じてすごく思っています。コロナ禍の学生生活でも自分は結構、大学生活満足しているほうやなって、この2年生になってから結構感じるものが多くなりました。

なんか1年生の間は、やっぱオンライン授業ですっと家にいることが多くなり、ずっとアウトドア派で高校まで生きてきたので、インドアにも対応できる人になったなっていう個人的な感想があります。

遊びに行かなくなった分、結構お金が浮くので貯金をしています。あと、下宿予定だったんですけど、今は実家で暮らしてるので、定期代がちょっと高いなぐらいで済むので、その辺もすごいありがたく過ごしています。

あとは、最近はずいぶん Zoom を結構、学生は使いこなしていると思うんですけど、何か、暇な子を集めてグループとかに勝手に Zoom リンク送って、暇な子、来てとか言って、みんなでオンラインのゲーム、人狼とかをやったり、Numer0n っていう数字当てるゲームとかをやって。そんな感じで暇なときは Zoom つないで遊んだりしています。あと Zoom の背景を変な背景にして、みんなで写真撮ったりみたいな。オンラインで結構遊んだりしています。

最近始めたのが、あんまり勉強してないよなっていう話を友達としました。国際学部の子と結構仲いいんですけど、その子たちも TOEIC の勉強をしてないという話が

結構あったりして。1 人やったら絶対しないから、電話しながらやろうっていうふうな習慣をつけて、何曜日の何時からは絶対電話して勉強するみたいな感じで、今はちゃんと勉強を進めています。

あと学生生活は、ソロ活、一人活動を楽しんでいます。これは『ソロ活女子のススメ』っていうドラマがあったのですが、それを見てから、1 人で映画見に行ったり、一人焼き肉とか、何か一人で普通にショッピング行ったりみたいな。一人で行動するのは、まん防とかが出ていて友達と会うのが厳しいときでも一人やったら許されるだろうという自分の範囲があるので、ソロ活で遊びに行ったりしています。

今年の夏は、オンラインですが、インターンシップにも一応行きました。情報の収集とかにも目を向けるようになったので、通知とか全部オンにして、何かあったらすぐ見るようにしてっていう習慣も結構つけました。あとは友達と夜に散歩行ったりして、健康面にも気を遣うようになりました。

次にバイトの話なのですが、私は半年前までショッピングモールのフードコートの飲食店でアルバイトをしていました。去年 2020 年度の春、緊急事態のときは休業で、解除されてからは時短営業で夜の 8 時まで営業やっていたので、その期間は普通にバイトに行っていました。うちは親も「バイト行け、行け」と言う人なので、それもあって、しっかりバイトは行っています。

私もオンデマンド授業のときに普通にバイトに行っていました。緊急事態とか出たら、すぐ休業になってしまう場所だったので、その休業中に何か違うところで働きたいなと思って、スポーツジムのアルバイトにちょっとだけ行きました。それは、子どもに水泳を教えるバイトをしていたのですが、それは親に「子どもはマスクしてな

いよ」みたいな感じでめっちゃ詰められて、やめてって言われて止めました。周りの子もバイトは、がっつり行っている子が多い印象です。

サークルなのですが、自分はサークルっていうか、この生協学生委員会だけ所属していて、1 年生のころは一応、バスケットボールのサークルも行っていたのですが、何かあんまり活動もなく、辞めました。生協入っただけでも先輩後輩とつながりができて、すごく楽しいなって思っています。授業についてなんですけど、授業は、1 年生のころは本当に真面目に真剣にオンライン授業も受けていました。この前、掃除をしていて、すごい資料がたくさん出てきて、真剣に受けてノートも何かびっくりするぐらいちゃんと取っているなって昔の自分はすごく偉いなって思いました。

2 年生になると全然オンラインを見なくなってしまっただけ。これ、皆さんたぶん「あるある」だと思うのですが、何か謎の「大学生の余裕」が出てきて、オンライン授業流れている、あとで見ようってなって、その「あとで」がいつまでも来なくて、レポート前にすごい必死に徹夜して見るっていう感じになっていました。よくやっていたオンライン授業なのですが、オンデマンドの配信がない授業、オンラインのライブ型だけのやつとかは、友達と交代交代で画面録画しながら受けて、その画面録画をあとで共有して、レポート前にもう 1 回見てみたいな感じでやっていました。それがすごい携帯の容量を取られるので、すごく大変だったなって思います。

あとは、自分の周りには結構オンラインのほうがいいって言っている子も多くて、自分もオンラインのほうは何回も見られるのがすごくいいし、2 倍速とかで見れるのも結構いいなと思っています。あとは、2

回生になって初めて期末テストを対面で受けて、学生証提示とか、初めて受けて、楽しかったなというふうに思いました。あとはゼミが一応、少人数なんですけど、先生が結構コロナ怖いっていう方でオンラインだったので、ゼミぐらいいは対面でもいいのかなと思いました。ゼミで対面じゃないとあんまり自分、今、学生委員の友達しかいないので、少人数のやつは対面のほうがうれしいなっていうふうにはちょっと思っていました。

諦めみたいなのなんですけど、それはやっぱり課外活動の合宿とか、コロナ前の資料とか見ると、結構、対面合宿でいろいろ楽しそうな写真がいっぱいあるのがすごくうらやましいなと思って見ていました。

やってみたいことなんですけど、学園祭です。龍谷大学の学園祭を経験したことがなくて。今年もたぶんやっていたようですがオンライン開催でした。友達と「学園祭で屋台とかやりたいよね」という話をしていました。

今のところ龍谷大学は、課外活動の制限レベルが絶対禁止ではないので、一応、2月はまん防も出ているので友達づくり企画はオンラインなんですけど、3月にやるほうは一応、対面で進めているので、入学前に新入生、友達いっぱい作ってほしいなと思って準備しています。自分たちの代が、さっきも言っていたと思うんですけど、友達づくり系の企画が何もなかったのも、自分たちの代みたいになって欲しくないなというのがあるので、そういう企画は対面でやろうっていうふうには、進めています。

【只友】 ありがとうございます。たくさんいろんなことを教えてくれてありがとうございます。先ほどの田中さんの小テストの話とかリアルでしたね。でも大丈夫、先

生もそういうことがあるだろうなと思っています。学びを実感できるように大学の先生がもっといろいろと考えなきゃいけないことを沢山教えられた気がしました。

ありがとうございます。本当に何か大学の先生たちが、この雑誌は大学の先生もたくさん読む雑誌なので、すごく意味があるかなと思って、ひととおりの話を聞かせてもらいました。

学生支援・大学への期待と大学の未来へ

【只友】 確かに、学園祭とかやりたいよね。いろいろとやりたいことがたくさんあるのかなと思います。そこで、最後に、次の三つのテーマから好きなことを話してください。一つ目は、コロナ禍で学生に対する支援でどんなことが必要か？二つ目は、皆さんは大学のこれからの変化をどう予感しているのか？三つ目は、皆さんは大学での学びでどんなこと期待しているのか？少し難しいかもしれませんが、お願いします。古賀君が動いているから、古賀君、発言できますか？

【古賀】 はい、僕が今お話を聞いていて考えていたこととしては、一番基本的なことだとは思いますが、やっぱり人とのつながりっていうところが、やっぱり一番本当に大事だになってというのは、この3年間、大学生活を送っていくなかで一番本当に感じたことです。1回生のときというのは対面で授業があったりとかして、サークルとかも普通に活動をしているというなかで、やっぱり友達とご飯を食べたり、友達と授業に行ったり、友達とバイトに行ったりっていう、ごく当たり前の生活を送ってい

ました。ところがコロナ禍で2年生、3年生って上がっていくなかで、2年生のときは、ぼくはまだサークル活動が現役だったので、そこで少しつながりがあったんですけど、3回生で引退するともう本当にまったく人とのつながりがない状態です。一人暮らしもしていたので、本当に先ほども皆さんが言っていたように、机にただ座って Zoom の授業を受けて、終わったら、もう、一人っていう。その時間が毎日あるっていうところを何かずっと繰り返していくうちに、本当に精神的にくる部分がありました。本当に人と人とのつながりっていうのが大事だになっていうのを思いました。今後、オンライン授業っていうのが、楽な部分や便利な部分とかってあるとは思いますが。今後、オンライン授業が進んでいくと、つながりという部分がどんどん希薄になっていって、「本当に大学に行く意味があるのかな？」っていうところまで、本当にいくのではないかなというふうに僕は考えています。ごく少数とかでもいいと思うのですが、5人とか10人とかでもいいので、何かその対面で、本当にしゃべるだけ、ご飯食べるだけでもいいので、そういう場を少しずつでも各大学や大学以外のところでもいいんですけど、そういった場を作ればいいんじゃないかなと、僕は考えました。

【只友】 ありがとうございます。なるほどね、机に座って Zoom が終わったら、終わったら一人っていうのがね。そのとき、授業すぐに振り返れるようなこととか、何か、ちょっとそういう工夫とかを先生もしたほうがいいのかな。先生のほうは授業が終わったら、やっと終わったってホッとしているから。先生はホッとしていて、学生は一人で、何か取り残された感があるかもしれないかな。

【古賀】 どうしても Zoom とか終わって、みんな、「お疲れ様でした」って言って切ったら、「ああ、終わった」ってなって。ついさっきまで結構明るくしゃべっていた人とかも、どっと疲れたりして、ちょっと参っちゃう部分があるのかなと思いました。

【只友】 分かりました。ありがとうございます。次は澤木君、いきますか？

【澤木】 はい、まず学生に対しての手助けの部分で、自分は大学の講義以外での学生とのつながり、ちょっと古賀さんと似ている意見ですけど、講義以外でのつながりを作れるといいのかなって思いました。どうしても大学が面倒を見るのって講義の部分だと思うので、難しいとは思いますが。

大学の変化についてですが、このままオンラインが定着するのかなと何となく思っています。オンラインならば、ウイルスとかの危機事象が起きても対応できますし、対面よりオンラインの方が、リスクが少ないので、安全を取るならこのまま定着しちゃうそうだなとは思っています。

それでもやっぱり対面のほうがすごく楽しいので、学びでの期待としては、やっぱり人と一緒に勉強するっていうのが、すごく楽しいなって思っています。3年になったのでゼミが始まったのですが、やっぱりみんなで一緒に勉強していく、同じ本を読んでいるのですが、何かそういうのがすごく楽しいです。オンラインだとどうしてもやるべきことを淡々とやって終わってしまうので、何か雑談しながらでもゆっくりでも、一緒に勉強できるようなものすごいいいなと思っています。

【只友】 ありがとうございます。大学の変化、オンラインがずっと続くのかもと。たぶん

大学によって温度差とか結構あるかなというのを思っています。

では次は、井上さんお願いします。

【井上】 私も授業以外でのつながりもそうですし、やっぱり大学って授業を受ける以外の経験もできる場所だと思うので、そういった部分の支援が欲しいなと思っています。1年生のときはコロナ前だったので、私は短期留学に行きましたし、学園祭でも役割を持っていたので、そうした経験が凄く楽しかったなという印象があります。2年生になっても留学に行きたいなと思っていましたがコロナで難しくなりました。授業以外での支援とかもあったらいいなと思っています。大学がどう変わるのかっていうところは、私の大学はもともと通信教育課程があったので、オンラインの形態はずっと残り続けるかなと思っています。

【只友】 ありがとうございます。次は2回生の池田さんお願いします。

【池田】 大学に学びの面から提供してほしいなと思っているのは、私は心理学部なので、児童施設などの施設見学っていうところが大事になってくるかなと思っているのですが、なかなか今できていません。動画を見てとか、写真を見てこんな雰囲気だよとか。あとは実際に疾患を抱えていらっしゃる方についても、動画を見てこんな症状がありますみたいな感じなのです。参考書を見て勉強しているような状態なので、1回勉強したことも実際に会ったり、実際に見学させていただくとか、そういった経験面でのフォローを今までよりも多めに取ってほしいかなと思っています。

サークルとかの面になってしまうのですが、先ほどのお話にもでしたが、大学

祭をまだ私たちの代は経験したことがない人が多くいます。サークルの加入率が低いうちというの、せっかくコロナが落ち着いているときに、練習する機会だとか、企画する機会があったとしてもそれを本番の晴れ舞台で披露するっていう場面がまだなくて、そういうやりがいもなくなってきました。なので、新入生に勧誘ウィークみたいな感じで、「勧誘していいよ」「廊下で勧誘していいよ」みたいな機会をもらったとしても、勧誘するときに、「どんなことをできたのですか？」って聞かれたときに、「いや、練習しかしていません」みたいなことにつながってしまっているんで、そういう成果を発表できる晴れ舞台を提供してほしいなと思っています。

【只友】 ありがとうございます。晴れ舞台が欲しいですね。また、経験面でのフォローっていうのは、全国教職員委員会が考えている「学生生活ブースター」ということですね。学生諸君が、「やった」という実感をどうやったら持ってもらえるだろうか、学んだっていう実感とかを持ってもらえるだろうかってことを考えています。

ありがとうございます。次は、寺山さんお願いしますか。

【寺山】 私、パツと思いついたものが、必要な手助けっていうか、助かったなって思っているのは、大学の一括ワクチン接種がすごく助かったなって思っています。というのも、活動が制限されているのもあるし、場所によってはワクチン2回接種の証明書を提出してくださいとかもあります。大学生の中には住民票を移してなくて、帰らないとワクチンが打てないとかあったりとかするので、大学で一括接種ができる

とかっていうのは、すごいたすかりました。これからもこういうことはやってほしいなと思っていました。ワクチン接種しているだけでできる幅広がるし、大学も、もう皆さんワクチンを打っているの、対面授業を再開しますとかっていうのもあったので、そういうのはあるんじゃないかなって思いました。

大学がどう変化するかについては、このワクチン摂取率が高まり、そもそもコロナウイルスも、インフルエンザみたいな感じにまで収まるのではないかなと思っています。近い将来はちょっと無理かもしれないけど、ほとんど元には戻らないかなと思っています。

【只友】 ありがとうございます。ワクチンの職域接種のようなものってというのは、学生の活動の幅を広げる手立ての1つといえますね。次は、田中さんお願いします。

【田中】 どんな手助けがいるかっていう部分では、龍谷大学では「百縁夕食」という100円で夜ご飯が食べられる企画とかがあったのは助かりました。もともと下宿生対象だったんですけど、自宅生も対象にしてくれたので、結構夜遅くまで大学に残って課題をやっている子とかも多いので、そういう部分ではすごく助かったなと思っています。コロナで下宿生への支援が多いなと思うんですけど、自宅生もわりと苦労している部分とか、何か親とうまくいっていない子とかも結構多いので、そういった部分にも目を向けていただけると、すごくありがたいなと思っています。

あとは、最近よく同期の友達としゃべるときに、20年度に入学した大学生が、たぶん一番オンラインで苦労した代だろうなと。21年度になるとオンライン授業とか

も確立していたり、パソコンの配布とかが始まっていたりといった感じで、対応がすぐできているし、対面授業もわりとあるし、オンライン企画も柔軟にあったのかなっていうふうに思うので、20年度入学の悲しさを忘れられている気がするよねって話とかしました。そういう話は、龍谷大学生協の谷口専務さんと話したり、今の2回生に向けて、2回生が楽しめる企画を1個やってみたりしたほうが大学生生活楽しめるのではないかなみたいな提案とかも結構あったりしています。まだできていないんですけど、大学の変化については、龍谷は結構対面が増えそうだなって印象です。2021年度の4月は、ほとんど対面授業でした。初めはほとんど対面授業で、キャンパスは人であふれて、何かお昼ご飯食べる場所がなくてみたいな感じでした。

オンラインでも喜んで受けますっていう学生の意見も多いかなって思います。学びへの期待は、オンライン授業のオンデマンド配信って、1時間半の動画撮る先生が少なくありません。私がうれしかった授業は、いつも授業動画を20分で、ポイントだけを集めた動画をあげてくれる先生の授業でした。20分やったらちゃんと見ていたの、1時間半とかより、そういう30分とか1時間以内におさえているほうが、学生からしたらちゃんと見る動画なのかなっていうふうに個人的には思います。

【只友】 ありがとうございます。そうね、20分でポイントのみのほうがいい。分かりました。最後は、2回生の村上さんお願いします。

【村上】 私はこれからの大学のこれからの変化について、私は、オンライン授業はやっぱり続くんじゃないかなと、続くというか

活用されていくのではないかなというふうに思っています。そこで大事になってくるのが、皆さんが言っていたような人とのつながりとか、リアルなオンキャンパスの意義をどれだけ感じられるかというところだと思います。

友達とこんな話をしました。「オンライン授業で先生が動画を撮って上げていくというふうになっているなら、来年もその動画を使えばいいんじゃないかなと思う」と話をしたときに、「先生も自分たちの研究をしていらっしゃるから、その年によっても研究の最先端とか支持している学説だとか、オンライン授業を毎年取り直せば、そこに先生の考えの変化が反映されていくから、それはそれで意義があるんじゃない？」と言われて、確かにそうだなと思いました。

今のオンラインと対面が混ざった大学というのは、どこの大学に行っても誰から何を学ぶかが固定されている対面の状況と、どこからでも誰からでも学べるということの狭間にある状況だと思いますが、その狭間にあるところを、どういうふうに持っていくのかを考える局面なのかなというふうに思っています。先生方や大学側の教育内容の進化とかも求められるのかなとも思うし、大学への期待にも関わってくるんですけど、高校生の延長で勉強をやり通せばというふうに大学はなるのではなくて、勉強したいことがあったり、勉強しながら働いている人とか、自分のそれぞれの活動をしている人がいろいろ混ざった場所じゃないと、その大学に行っている意味はあまり感じられないと思います。特に法学部とかはどこの大学にもあるようなもので、教科書を読んで勉強するのが基本なので、その大学のその先生じゃなくてもいいのではないかなというふうに思うときが多かったん

ですけど、大学自体にもっといろんな人が集まればもっと魅力的になるんじゃないかなというふうに思います。

【只友】 村上さんは、結構面白いこと話してくれました。大学自体が進化を求められるのではないかって、私もそう思います。2020年4月に入る前に全面的にオンラインに切り替えを決めたのですが、オンライン授業を始めて1カ月目ぐらいかな、「これひょっとして、コロナが収まった後は対面授業の価値っていうのを高めないと、学生、大学来なくなるぜ」って思ったのを思い出しました。さらに、予備校とかがオンデマンド教材の配信事業とかしているのだけでも、そのような教材で勉強した学生も増えてくるわけですから、大学も変化に対応が必要ですね。大学に行く意味って何なのですかねというふうになると思うので、大学に行っても対面で学ぶ意義っていうのが何なのかっていうのを、やっぱり実感できるようにしなきゃいけないかなと。

今日話を聞いて、やっぱり友達とのつながりが大事とかって言うてくれてたんだけど、その話を聞きながら、友達とのつながりのなかで何か一緒に知識を確かめるっていう経験っていうのは、やっぱり大事なのかなというふうに思いました。知識を確かめ合う経験っていうか、同じことを経験して確かめ合うっていうね、感覚を確かめ合う、知識を確かめ合うっていう、そういうようなのは大事なかなと思って話を聞かせてもらいました。

最後言い残したことがあるから言っときたいってことがある人、どうですか？ 寺山さんどうぞ。

【寺山】 普通に自分の暮らしのなかでしゃべるじゃなくて何かほかの人、それこそ東

北のことだったらブロック事務局で集まったときとかにしゃべるし、自大学は自大学でしゃべるし、ただ、集まることってあんまり、集まってしかも自分のことに関してしゃべることってあんまりないから、いろいろ聞けて面白かったなって思いました。コロナ世代っていうのを、そういう考えを私、持ってなかったの、ああ、確かになって思いつつ聞いていました。ありがとうございました。

【只友】 ありがとうございました。田中さん最後に一言。

【田中】 今日はありがとうございました。最後に只友先生がおっしゃってたコロナ世代をいい言葉に変えるっていうこと、世間から見て、「コロナ世代の子はすごいんですよ」っていう感じを焼き付けたっていうか、みんなでしてほしいなっていうふうにすごい思いました。

【只友】 ありがとうございました。次は池田さん。

【池田】 何かコロナ世代の人を世間の人は、結構かわいそうだとか、そういう哀れみの目で見える人もわりといるのかなとも思うんですけど、そうじゃなくて、只友先生がおっしゃったように頑張ってきてるっていうふうに見てもらえるんだなっていうふうなのが、すごくうれしかったです。そういう認識がもっと広がればなと思いました。今日はありがとうございました。

【只友】 ありがとうございました。じゃあ、古賀くんお願いします。

【古賀】 今日は参加させていただいてあり

がとうございます。コロナ世代っていうところで、これから就活であったりとか、あとはいろいろなところで何か少し、小言を言われたりだとかっていうところもあると思うのですが、ただそのなかで、たぶん今僕たちは、そういった厳しい状況下でも、先ほど先生方もおっしゃられてたように、自分たちで、こうやったらいいんじゃないかだったりとか、それなりに順応しているんで、僕たちそんなになまけてはいないんだぞと、ちゃんと頑張っているんだぞっていうところはあると思うので、そういったところはしっかり、もっともっと出していければいいかなっていうのは全体を聞いて感じました。今日はありがとうございました。

【只友】 ありがとうございました。じゃあ、次は村上さんお願いします。

【村上】 私も皆さんの話を聞いたのがすごくよかったなと思います。自分たちのコロナの状況の大学生活を振り返ってこんなにしゃべるのは、なかなかないなと思ったので。でもそのなかでも、いろいろ工夫とかたくましさとかを、皆さんがそれぞれ自分たちの場所で頑張っているのになんていうふうに思って、来年3年生、4年生になって対面活動ができるのかはちょっと分からないんですけども、大学生活をより充実させたものになるように頑張りたいなと思いました。今日はありがとうございました。

【只友】 ありがとうございました。じゃあ、次は井上さんお願いします。

【井上】 今日はありがとうございました。ほかの地域の方の話とか聞く機会がなかったのですごく自分にとっても新鮮だなと

思ったのと、あと3年生だとコロナ禍で就活とかしていて、家でどうやって過ごしてたのかという話になったときに、結構そういう工夫いいねみたいに褒められたりするところもあったりすると、コロナ禍が全部悪いわけではないのかなってというのは、私も感じました。本日はありがとうございました。

【只友】 ありがとうございました。次は澤木くんいこうか、最後に一言お願いします。

【澤木】 今日はこのような機会でお話しさせていただきありがとうございました。自分はコロナで、やっぱりコロナ禍だからこそこういういろんな大学の人と話せたと思うので、やっぱりコロナでもいいところいっぱいあったので、全然気にせずにみんなと頑張っていければいいなと思っています。今日は本当にありがとうございました。

【只友】 ありがとうございました。本当に長時間ありがとうございました。皆さんの声を聞いて大学ももっといろいろと考えなきゃいけないかなと、それが一番の支援になるのかなって思いました。学生に対する支援ってというのは、やっぱり大学がどういうふうに学生たちのこと考えてインフラを作っていくのかなってということだと思いました。それでは、今日の学生座談会はこれでお開きにしたいと思います。どうもありがとうございます。

座談会を終えて

只友景士

コロナ禍に翻弄される大学

全国で活躍する大学生協の学生委員の皆さんと2時間の座談会を終えて、若干の感想を記しておきます。2020年から始まったコロナ禍は3年目に突入しようとしています。この2年あまりの間に、大学はコロナ禍に翻弄されてきました。2020年の前期は全面オンラインに移行した大学も多かったかと思います。その後は、感染状況による緊急事態宣言やまん延防止等重点措置などの国や都道府県からの行動制限を大学の行動制限の基準としながら、大学としても行動制限を強めたり、緩めたりを繰り返し、それに対応して、オンライン授業と対面授業が混在する大学の授業風景が普通の風景となっています。コロナ禍に翻弄されながらも、オンライン授業を大学の標準装備として実装した意味は大きいのではないかと考えます。

今回の座談会記事を読んで、オンライン授業が入った大学の学びが大きく変化しつつあることも実感して頂いたのではないのでしょうか。そうした変化の中で、学生達は苦勞しながらも順応もしてきてくれています。今回の座談会では、学生達の逞しさ、より良く生きようとする学生さんの生き様の一端を知って頂けたのではないのでしょうか。

学生生活ブースター

～学びの実感の希薄化を乗り越える～

座談会の中で、「学びの実感が希薄化している」と言った趣旨の発言もありました。この問題は、全国大学生協連合会の全国教職員委員会でも問題意識を持っています。2021年12月には、全国教職員委員会から

全国の会員生協の理事長・教職員理事向けの呼びかけ文「第 65 回全国大学生協同組合連合会・通常総会に際し、大学生協の再生に向けて会員大学生協の理事長・教職員理事に呼びかけます」を提出しました。その中で下記のように述べています。

(学生生活ブースター)

4. 多くの学生が、学生としての実感が希薄化しており、コロナ禍で学生生活を充実したものだと思うことができていません。学生の皆さんが、学生生活を充実していると感じられるような「学生生活ブースター」となる取組を大学とも連携し取組を進めましょう。五感に訴える経験から

全国教職員委員会は、学生の学びの実感を高める取り組みを様々なレベルで強めなければならないと考えています。それは学生にとって切実な要望であることも、今回の座談会を通じて分かりました。また、その学生達の望んでいることは、人とのつながりの中でゆっくりでも確かめ合いながら知識を確かなものにしていくプロセスであり、人格の陶冶なのだなと改めて実感しました。

コロナ世代を勇気づける

座談会では、コロナを経験した世代を「コロナ世代」と呼んでいたのですが、学生から「マイナスイメージにとられないかと怖い」との懸念が出されました。この「コロナ世代」という言葉が世間に流布するなら



ば、必ず良い意味で使われるように大学及び大学人は今一層の奮起が求められると思いました。私たち大学人は、学生のためになることをできるだけやっていこうと考えています。学生諸君に呼びかけます。どうか一緒に考えながらキャンパスの再生に取り組みましょう。